

2026 年度 夏期集中講義のご案内

(文学部文化史学科設置科目、**春学期登録**、2 単位)

文化史特論 (5)

——東アジアのなかの日本古代文化、日唐律令比較研究の最前線——

武井紀子 先生

場所：今出川校地 (RY105 の予定)

日時：8 月 18 日 (火) ～21 日 (金) 2 講時～5 講時

文学部文化史学科では夏期休暇中に文化史特論 (5) を**集中講義**として開設してきた。受講する場合は履修要項とシラバスを参照して、**春学期科目として登録**していただきたい。

2026 年度の出講をお願いした武井紀子先生は、日本古代史学界を牽引する若手ホープで、財政史という興味深い視点から、東アジアのなかの日本古代文化の特質について斬新な研究を重ねておられる著名な研究者で、また「日本古代的天皇与貴族」や「《政事要略》与日本律令研究」といった中国語論文も執筆され、国際的にも注目されている。2014 年には名誉ある東方学会賞を受賞されている。

東京大学で引き継がれてきた**日唐律令比較という分析方法**、すなわち、社会を規定する法制、社会の実態を反映している法制を素材に、中国と比較することで日本の社会の実像と特質を赤裸々に浮かび上がらせる研究方法を継承されている。最先端の研究成果をご提示いただくことを通して、皆さんに**その「研究方法」**を伝授していただく。

今回の講義では、**唐令の復元方法**、世紀の大発見の**天聖令研究の研究成果**を提示しつつ、日本の**財政システム**を扱いつつ、**広く東アジア的視野のなかで相対化して位置付けていく**。

このたび**集中講義という形式のおかげで関西に出講していただくことができた**。こうした最先端の研究方法を学べる**貴重な千載一遇のチャンス**である。関西と関東とでは歴史認識や分析方法で異なる点も多く、東大系の学統を体現する武井先生に接することで、みなさんの**研究方法や歴史観を見直す契機**ともなるだろう。

今年限りの貴重な機会、**古代史・文化史・考古学の学生**はいうまでもなく、**中世・近世・近代を専攻する学生**、さらには**東洋史、国文学、法制史などの幅広い学生**にも大きな刺激となるテーマである。積極的な登録をお勧めする。文学部他学科や他学部で関連諸学を研究している熱意ある学生にも、この機会を生かすべく登録・聴講を呼びかけたい。

〔武井先生のご論文〕

武井紀子「律令と古代財政史研究」(大津透編『律令制研究入門』2011 年)。

武井紀子「律令財政と貢納制」(岩波講座『日本歴史』古代 3、2014 年)。

武井紀子「古代における記録木簡と帳簿」(『季刊考古学』174、2026 年)。

武井紀子「日本古代倉庫制度の構造とその特質」『史学雑誌』118—10、2009 年)。

武井紀子「通過儀礼に対する平安貴族の認識：産養をめぐる」(山中裕編『歴史の中の源氏物語』2011 年) など